



土門拳 シリーズ〈続・筑豊のこどもたち るみえちゃんはお父さんが死んだ〉より
1960年（土門拳記念館蔵）

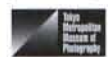
2001年2月3日(土)―3月30日(金)

【主催】東京都／東京都写真美術館／毎日新聞社

【会場】東京都写真美術館2階展示室

【協賛】株式会社ニコン／富士写真フイルム株式会社／光村印刷株式会社／株式会社写真弘社／株式会社東芝東京支店

【特別協力】財団法人土門拳記念館 【協力】東武鉄道株式会社／サッポロビール株式会社



東京都写真美術館 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel.03-3280-0099 NTTダイヤル03-3272-8600 URL <http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>

写真の報道スタイルを大きく変えた4人の先駆者たち

名取洋之助・木村伊兵衛・土門拳・三木淳の写真から

ドキュメンタリーの時代

The Documentary Age: Photographs by
Natori Younosuke, Kimura Ihee, Domon Ken, and Miki Jun

東京都写真美術館では日本のドキュメンタリー写真の分野で先駆的な役割を果たした4人の重要な写真家、名取洋之助、土門拳、木村伊兵衛、三木淳の作品を当館のコレクションを中心に紹介いたします。

1930年代、ドイツ流の写真による報道スタイルを日本に持ちこんだ名取は、「写真は文字のかわりになるほど素晴らしい能力を持っている」と主張し、写真を視覚的ツールとすることを実践しました。組写真を駆使したグラフィックなレイアウトなど今では当たり前のこととして行なわれている手法も、当時としては非常に斬新で、日本の写真による報道のあり方を大きく変えることになりました。

また、こうした名取の活動は同時代の写真家たちに、社会的な出来事を写真的に捉え、事実をより深くつかむ姿勢を持つことを促し、質の高いドキュメンタリー作品を誕生させました。

そのなかでも優れた作品を残した写真家4人。当時、スナップ・ショットの方法で新しい境地を開いていた木村伊兵衛、後にリアリズム写真運動を推進する土門拳、『ライフ』誌のスタッフ・カメラマンとして活躍した三木淳らを本展では取り上げます。名取をはじめとして、日本のドキュメンタリー写真に一時代を築いた木村、土門、三木が、独自のスタイルを確立していった過程を、それぞれの代表作品を通して検証しようとするものです。

出品作品：

名取洋之助 シリーズ〈アメリカ〉1937年

木村伊兵衛 シリーズ〈秋田〉1952-65年

土門拳 シリーズ〈筑豊のこどもたち〉1959-60年

三木淳 シリーズ〈赤軍故郷に帰る〉1949年

〈血のメーデー〉1952年

〈朝鮮戦争〉1953年ほか

【開館時間】10:00～18:00（木・金曜日は20:00まで）

入館は閉館の30分前まで

【休館日】毎週月曜日（休館日が祝日の場合は翌日）

【観覧料】（同時開催の映像展を含む）

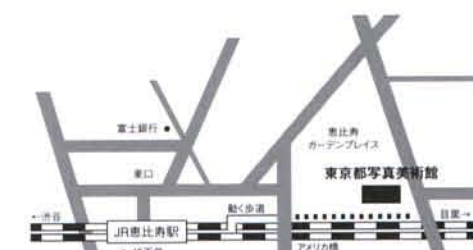
一般500(400)円／小・中・高校生250(200)円

()内は20名以上の団体料金

*小学生未満、65歳以上及びお体に障害をお持ちの方と

その介護者は1名は無料（証明できるものをご提示ください）

【フロアレクチャー】毎月第2・4金曜日 14:00～



恵比寿ガーデンプレイス・JR恵比寿駅東口徒歩7分

*当館には駐車場がありません。お車でのご来館はご遠慮ください。

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 Tel.03-3280-0099



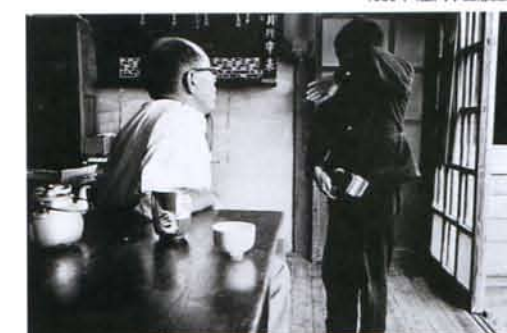
左・上：名取洋之助 シリーズ〈アメリカ〉より 1937年（東京都写真美術館蔵）



木村伊兵衛
上：平鹿郡大雄村、シリーズ〈秋田〉より 1959年（東京都写真美術館蔵）
右：大曲市大曲西根、シリーズ〈秋田〉より 1958年（東京都写真美術館蔵）



土門拳
左・下：シリーズ〈続・筑豊のこどもたち るみえちゃんはお父さんが死んだ〉より 1960年（土門拳記念館蔵）



三木淳
下：警官隊とデモ隊の乱闘、シリーズ〈血のメーデー〉より 1952年（東京都写真美術館蔵）
右：休戦を迎えた兵士の顔、シリーズ〈朝鮮戦争〉より 1953年（東京都写真美術館蔵）



ドキュメンタリーの時代